

2024

9.4 (水)

12:10
12:50

12:10-12:15

◆ 演者紹介

12:15-12:40

◆ プレゼン

12:40-12:50

◆ 質疑応答

オンライン
(Zoom)

登録はこちら▶▶

https://us02web.zoom.us/webinar/register/WN_83aA3BlrTmmW9MdjCGQzVw

【技術支援】九州大学 Q-AOS

母体栄養と次世代の病気素因 ～次世代の健康は現世代の責任!?!～

司会：田中 俊徳 准教授 (Q-AOS コーディネーター)



Key Words

生活習慣病

母体栄養

胎内環境

エピゲノム

安河内 友世 准教授

九州大学大学院歯学研究院 OBT 研究センター



2003 年九州大学歯学部卒。2007 年同大学院修了 (博士 (歯学))。2006 年より日本学術振興会特別研究員、2008 年より九州大学大学院薬学研究院特任助教を経て、2011 年スウェーデン王国 Karolinska Institute に留学 (日本学術振興会海外特別研究員)。2013 年より九州大学大学院歯学研究院学術研究員を経て、2015 年より福岡大学薬学部講師・准教授。2020 年に九州大学大学院歯学研究院 OBT 研究センター准教授として着任し、研究教育および部局国際推進室を担当。

研究では、主にがんや代謝性疾患の病態解明研究に注目し、これまで生活習慣病の二大発生要因と考えられてきた遺伝素因、後天的環境要因に加えて、第 3 の要因として先天的環境要因 (出生前の環境要因) を提唱できる可能性を追究しています。

また、最近の国際連携活動としては、2023 年 8 月～11 月に九州大学 SENTAN-Q プログラムで国立台湾大学での教育研究、2024 年 2 月～5 月には科研費国際共同加速基金 (国際共同研究強化 A) のプロジェクトでシンガポール国立大学での共同研究を行うなど、アジア・オセアニア地区での国際共同研究を積極的に行っています。

従来より、受胎から 2 歳までの人生最初の 1000 日間 (First 1000 days) が、生活習慣病の素因形成に最も重要な時期であることが示唆されてきましたが、その分子基盤は不明です。近年、エピゲノム、つまり DNA 塩基配列の変化を伴わない遺伝子発現変化についての研究が進展してきました。

講演者はこれまでに、妊娠母体の栄養状態がエピゲノムを介して、子の成熟後の疾患素因に影響していることを動物実験で実証し、さらにその結果をヒト疫学研究で検証することで、疾患素因を決定する経世代エピゲノム変化の同定を行ってきました。本セミナーでは、いわゆる“病気になるやすさ”を決定する最上流因子の定義のために取り組んでいる我々の研究内容の一部について紹介したいと思います。